

## もり 森林づくり活動についてのアンケートの主な集計結果

### 【団体の概要】

団体の会員数については、10人以上50人未満が全体の51%（前回43%）を占めている。また、前回、100人未満の団体は全体の69%であったが、今回は76%に増加している。

団体の会員の年齢層については、「50歳以上60歳未満が最も多い」、「60歳以上が最も多い」との回答がそれぞれ全体の40%を占めており、50歳以上が最も多い団体が約8割を占めている。

### もり 【森林づくり活動の内容】

もり  
森林づくり活動の主な目的については、「里山林等身近な森林の整備・保全」を挙げた団体が67%、以下「環境教育」が46%、「森林に関する普及啓発」が34%、「地域づくり、山村と都市との交流」と「手入れの遅れている人工林の整備・保全」が30%などとなっている。

団体の活動頻度については、年に4～11日である団体が27%と最も多く、それ以外には月に2日が16%、年に2～3日が15%などとなっている。

### もり 【森林づくり活動の場所】

活動のフィールドとなっている森林の所有者については、市町村が39%、個人が35%、国（森林管理署）が16%、都道府県が16%、学校林13%となっており、ボランティア団体の活動の場も多岐にわたっている。

活動にあたっては、森林所有者と協定を締結していると回答した団体が33%（前回24%）と増加する一方、特に取り決めは行っていないと回答した団体は33%（前回38%）と減少している。

### もり 【森林づくり活動における課題等】

もり  
森林づくり活動で苦労している点については、「資金確保」との回答が61%と最も多く、次いで「参加者の確保」が55%、「安全の確保」が28%、「指導者の養成・確保」が20%などとなっている。

森林ボランティア活動を進める上で行政へ期待することについては、「活動費の資金的援助」が68%、「森林ボランティア活動への参加、共催、後援」が40%、「技術の指導や研修会の開催」が20%、「活動場所に関する情報提供」が16%などとなっている。

## 【安全の確保と指導者】

アンケート調査で把握できた怪我人は375人（前回449人）であり、前回より減少傾向にある。

このうち「1ヶ月以上休業が必要な怪我」が15人、「3日から1ヶ月未満休業が必要な怪我」が15人などとなっている。

怪我の原因としては、手工具（鎌、鉋等）によるものが41%、ハチ刺され等によるものが33%、転倒、滑落によるものが28%、落石、倒木等によるものが12%となっている。

指導者については、「会員の中に技能指導者がいない」との回答が30%（前回35%）となっており、そのための対応としては、「森林組合からアドバイスを受けている」が34%、知人等外部の人に依頼が17%などとなっている。

<sup>もり</sup>森林づくり作業にあたっての安全マニュアルの使用状況については、「行政機関や他の団体が作成したものを活用している」との回答が32%（前回31%）でほぼ横ばいとなっており、「特に使用していない」が58%（前回62%）、「独自に作成したものを活用している」との回答が13%（前回9%）となっている。

( 今回の調査結果からうかがえる主な点 )

## 1 森林ボランティア人口の増加

森林ボランティア団体数は、数的にも1,863団体と3年前に比べ1.6倍になっており、ボランティア人口は確実に増加傾向にある。なお、100人未満の団体が前回の69%から76%になるなどの結果より、個々の団体はやや小人数化する傾向にある。

## 2 森林ボランティア活動に取り組む団体の多様な目的

森林<sup>もり</sup>づくり活動の主な目的については、67%の団体が「里山林等身近な森林の整備・保全」を挙げたほか、「環境教育」(46%)、「森林に関する普及啓発」(34%)、「地域づくり、山村と都市との交流」(30%)などが挙げられており、森林ボランティア活動を行う目的が、森林づくりそのものだけでなく、環境教育や普及啓発等、多様になってきているとともに、「手入れの遅れている人工林の整備・保全」(30%)など専門的な目的もあげられており、チェーンソー等の機械を使用する団体が増加(前回の57%から今回64%)していることとあわせ、活動が高度化していることがうかがえる。

## 3 森林ボランティア活動の課題

森林づくり活動で苦労している点については、「資金確保」との回答が61%と最も多く、次いで「参加者の確保」が55%、「安全の確保」が28%、「指導者の養成・確保」が20%などであり、団体数が増加するなど森林ボランティア活動が盛んになってきている中で、抱えている課題は前回の傾向に近いものとなっている。

## 4 安全対策への取組みの推進が重要

森林ボランティア活動の安全については、活動を行う上での課題の一つであるが、「会員の中に技能面での指導者がいますか」との問いに「いない」と回答した団体が30%(前回35%)と減少しており、また、「安全マニュアル等を使用していますか」との問いに「特に使用していない」と回答した団体も58%(前回62%)となっているなど、安全管理の意識は高まっているものと考えられる。

また、怪我人については、375名(前回449名)となっており、ボランティア団体数が増えている中であって減少傾向にはあるものの、今後もさらなる安全管理の体制づくりと普及啓発の徹底を図っていることが必要である。